

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		4/14 （4/7との比較）	4/14 （4/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.49% （▲0.10）	81.52円 （▲1.63%）	+2.0% 2016年4Q	0.50%	中銀は予想通り政策金利を据え置く中、2017年の経済見通しをやや引き上げるものの、過剰能力が残っていると見方も示唆。地政学リスクが引き続き意識される中、カナダドルは対円で下落。国債利回りは低下。	中古住宅販売件数などの発表が予定され、引き続き景気回復の度合いを探る状況。北朝鮮などの地政学リスクや、フランスなど欧米の政治経済動向が意識される中、国債利回りはレンジ内の推移となるとみられる。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		
ブラジル 	BB	9.90% （+0.01）	34.55円 （▲2.13%）	-2.5% 2016年4Q	11.25%	中銀は通貨政策委員会で市場予想通り政策金利を引き下げ、11.25%とした。国債利回りは小幅上昇。レアルは対米ドルで横ばい、対円では下落。	通貨政策委員会の議事録が公表される予定。今後の利下げについてどのような言及があるか注目。債券利回りには低下圧力がかかりやすい状態も、年金改革法案の不透明感などから債券・為替市場は上値の重い展開を予想。
	Ba2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.04% （+0.05）	5.86円 （▲1.51%）	+2.4% 2016年4Q	6.50%	鉱工業生産が前年比で市場予想を下回るなど、公表された経済指標は概ね市場予想を下回った。国債利回りは上昇。ペソは対米ドルで上昇、対円では下落。	注目される経済指標の公表はなし。引き続き、米国の動向をにらみながらの展開が継続し、NAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉を見据え、債券・為替市場ともに神経質な展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		4/14 （4/7との比較）	4/14 （4/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.47% （▲0.08）	82.32円 （▲1.17%）	+2.4% 2016年4Q	1.50%	企業景況感指数が前月比で改善し、雇用者数が市場予想より増加するなど経済指標は良好。北朝鮮などの地政学リスクなどが意識される中、国債利回りは低下。オーストラリアドルは対円で下落。	国内では重視される経済指標は見当たらないが、中国のGDP（国内総生産）などに注目。地政学リスクに加え、欧米の政治動向にもらみながら、国債利回りとおーストラリアドルは一進一退の動きを想定。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.93% （▲0.13）	76.01円 （▲1.41%）	+2.7% 2016年4Q	1.75%	住宅売上高が前年比でマイナス幅が縮小し、製造業PMIが上昇するなど経済指標は総じて堅調。世界的にリスク回避姿勢が強まった影響から、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	発表予定のインフレ率は上昇する公算。ただし、緩和的な金融政策を継続するとの中銀の姿勢は変化しない見込みで、地政学リスクなどの外部要因に左右されると予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.59% （▲0.00）	12.69円 （▲1.25%）	+1.8% 2016年4Q	0.50%	インフレ率は前年比伸び率が、中銀の政策目標とほぼ同水準。祝日で木曜と金曜が休場となる中、国債利回りはほぼ横ばい。世界的なリスク回避姿勢の強まりを受けて、ノルウェークローネは対円で下落。	景気の回復は当面緩やかなペースにとどまる見込み。発表予定の住宅価格指数などの経済指標でも、景気に対する見方は大きく変わらないと予想。引き続き原油価格や欧州の政治情勢など外部要因に左右されやすい環境。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
















※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		4/14 （4/7との比較）	4/14 （4/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BBB-	7.85% （▲0.09）	8.08円 （▲0.07%）	+0.7% 2016年4Q	7.00%	格付機関による債務格付の引き下げを受けて、新財務相が既存の財政安定化計画の堅持を示した。同発言を受けて、国債利回りは低下。ランドは対米ドルで上昇。市場全般の円高を受けて、対円では下落。	インフレ統計などの発表を予定。債務格付の引き下げ以降、ランドの下落を受けてインフレ率は上昇しやすい環境。政治的な混乱を受けて、債券・為替市場ともに上値の重い展開を予想。
	Baa2	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		
インドネシア 	BB+	6.73% （▲0.17）	0.82円 （▲1.92%）	+4.9% 2016年4Q	4.75%	海外からの投資資金の流入が強まったことや、財務相が今年の経済成長について楽観的な見方を示したことなどを背景に、ルピアは対米ドルで上昇。円高により、対円では下落。国債利回りは低下。	金融政策決定会合を予定し、政策金利は据え置かれる見込み。国内景気が堅調に推移する中、相対的な利回り水準の高さが選好されやすいことから、債券・為替市場ともに堅調な推移を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.79% （▲0.07）	1.69円 （▲2.49%）	+7.0% 2016年4Q	6.25%	鉱工業生産は前年比でマイナス、インフレ率は前年比で伸びがやや加速。国債利回りは低下。ルピーは対米ドルで横ばい。市場全般の円高を受けて、対円では下落。	卸売物価指数などの発表を予定。GST（物品・サービス税）の導入に向けての審議が順調な進捗を見せるなど、国内改革の進展が市場で好感されやすく、債券・為替市場ともに堅調な推移を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債務格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

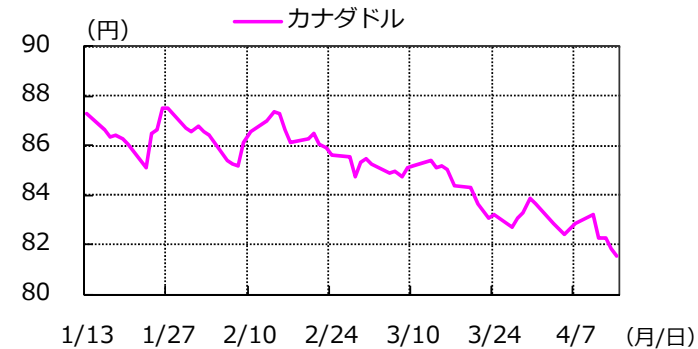
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

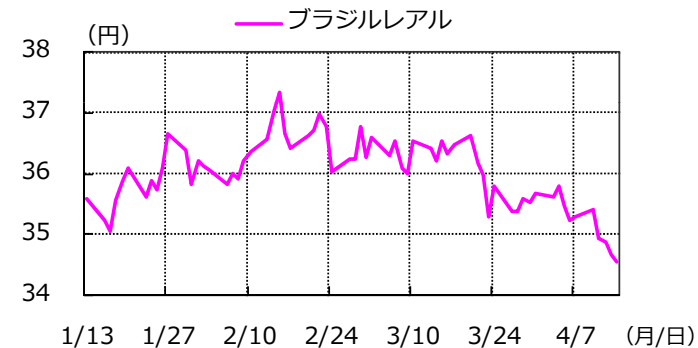
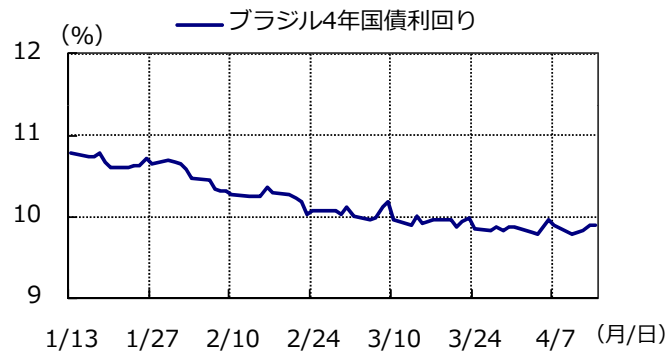
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/1/13～2017/4/14

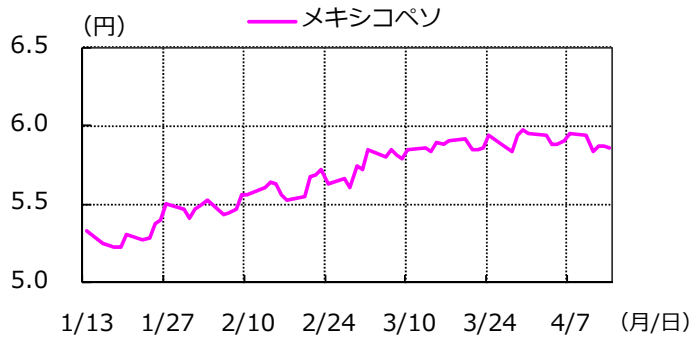
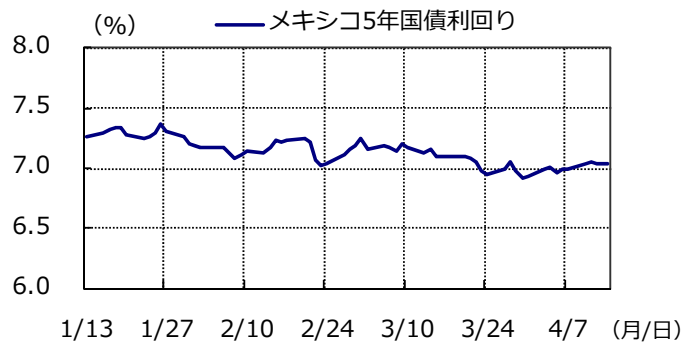
カナダ



ブラジル



メキシコ

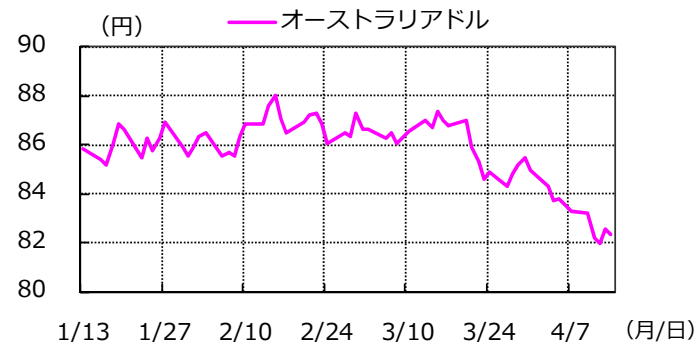
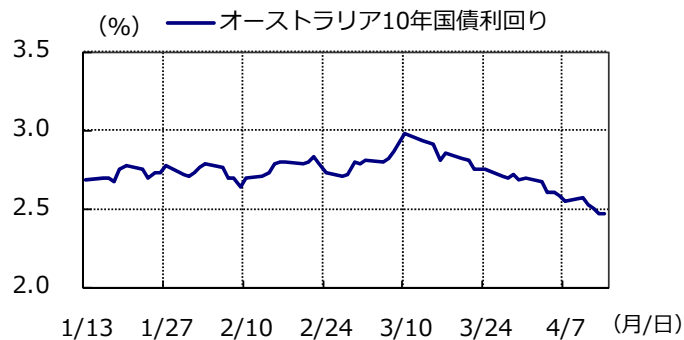


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

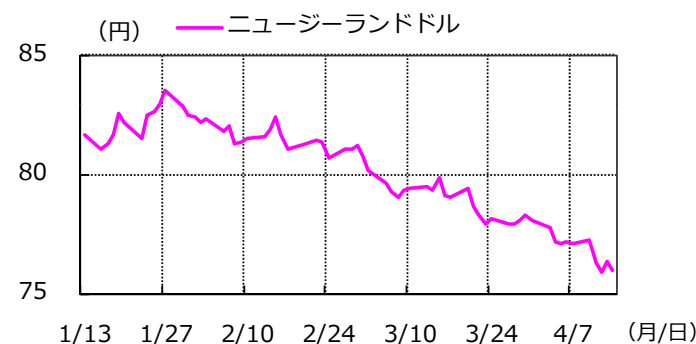
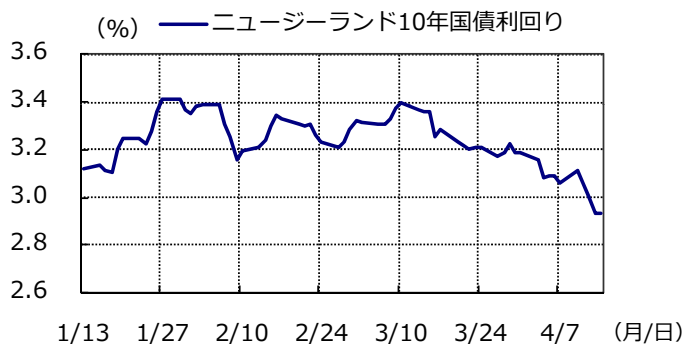
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/1/13～2017/4/14

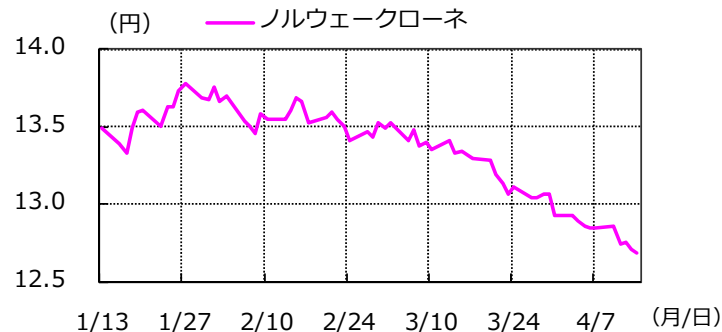
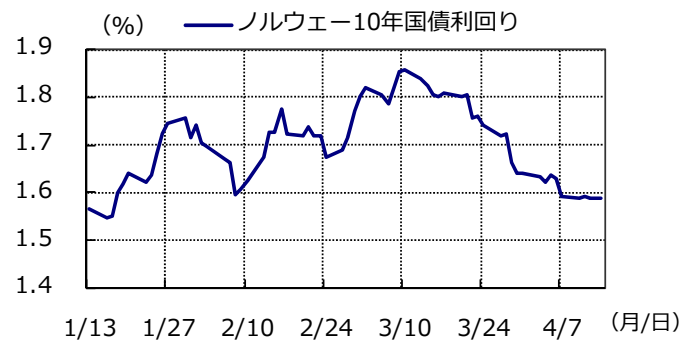
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

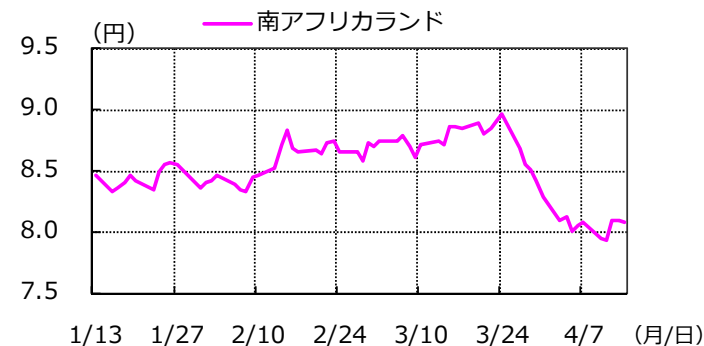
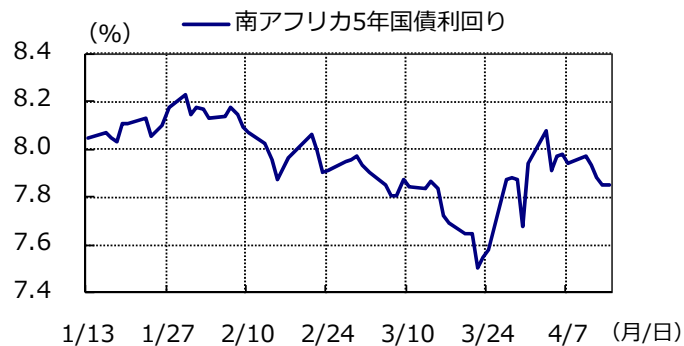


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

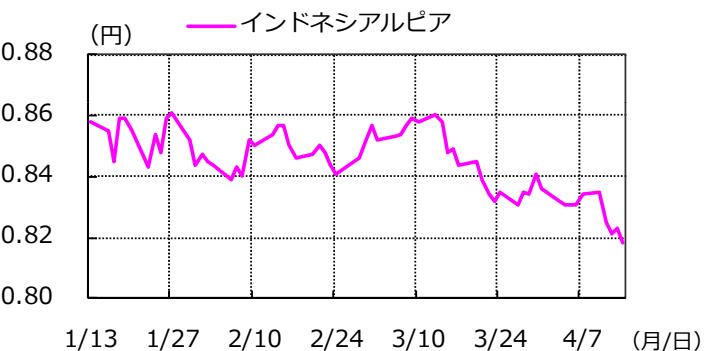
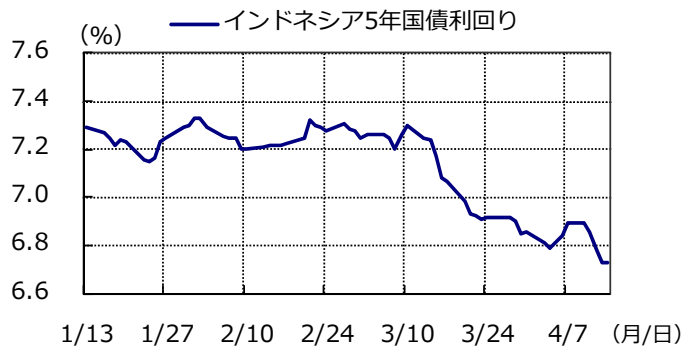
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/1/13～2017/4/14

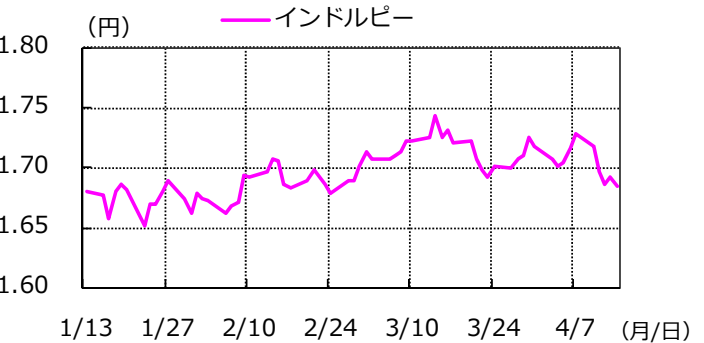
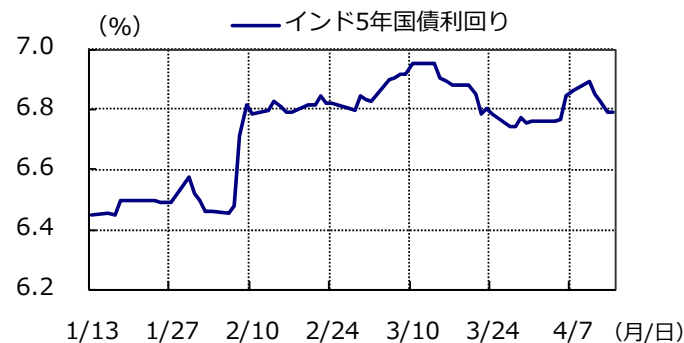
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。